

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1950880045	
法人名	医療法人千歳会	
事業所名	グループホーム甲西	
所在地	南アルプス市田島1105	
自己評価作成日	令和3年1月5日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/19/index.php">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/19/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
聞き取り調査日	令和3年2月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は介護老人保健施設、通所リハビリテーションが併設しており、広々とした環境にあります。また、医師や看護師による医療面での連携や管理栄養士による栄養面を考慮した食事の提供をしています。スタッフも一緒に食事をしたり、畑作業を行うなど家庭で生活しているような雰囲気作りを心がけております。掃除なども利用者様と一緒にいき、常に気持ちよく過ごして頂けるよう環境整備を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業者は、広大な敷地の中にいくつかの施設が併設されている。常時医療面、栄養面で連携が取れている。管理者始め職員は、毎月、利用者の生活の様子を家族に丁寧に報告して感謝されている。コロナ禍であっても、ラインを使って家族と情報を共有し、利用者が、地域の一員として安心して暮らせるように支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている <b>現状は(参考項目:2,20)</b>	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに(コロナ禍以前) 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている <b>現状は(参考項目:49)</b>	○ 1. ほぼ全ての利用者が(コロナ禍以前) 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム甲西**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	これまでの理念をもとに、職員全体で意見を出し合いながら利用者さまの尊厳や安全を守ること、またご家族や地域の方とのつながりを大切にすることを新たにわかりやすく具体化した理念を作成し、目の届く場所に貼って毎日唱和し職員で共有している。	今年度の理念を職員と話し合い、利用者の尊厳を守る。安全に配慮しながら、生活の維持向上を目指す。など幾つか理念を掲げ、具体的なケアについて意見の統一を図っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在はコロナ過の為実施が難しい状態だが、通常であれば田島地区の一員としてお祭りや地域活動の情報を地域の方から教えていただき、利用者様が地域とのつながりを持ちながら暮らせるよう工夫している。また、地域の小学生、中学生の来訪を積極的に受け入れ、老健と合同で交流の機会を持っている。	自治会に加入して回覧も回って来たり、チラシ等から地域の情報を得るが、新型コロナウイルスの影響で参加は出来なかった。利用者や事業所の回りを散歩の際には、地域の方と挨拶を交わし、地域で安心して暮らし続ける事が出来るように支援をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日々の実践での認知症の方の理解や支援について、地域の方の相談やアドバイスができるようにしている。相談はいつでも対応ができる。実習生の受け入れも積極的に行なっている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染防止の観点から今年度は会議を開催できていないが、2ヶ月に一回利用者様の状況やサービスの実状やその取組状況を書面で委員の方に報告している。また、意見や情報も電話などでいただいている。	運営推進会議の開催は出来なかったが、事業所の行事や活動内容を、書面で郵送して意見をもらうようにしている。コロナに関する事業所の状況を知らせ、また、他の事業所の情報を聞きサービスの向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる		利用者や事業所の実情やケアサービスの取り組みなどを折に触れて伝えている。地域の受け入れも依頼され、担当者積極的に連携を図るように取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は一切行わない旨を事業所内に提示し、ご家族様にも説明を行っている。玄関の鍵は日中は常に空いた状態にしている。事業所内研修以外にも年2回老健と合同での身体拘束内部研修にも参加して学習している。	身体拘束をしないケアに関しては、高齢者の手引きなど、資料をフロア毎に置き、全職員で学び共有している。スピーチロック・権利擁護の基本・虐待について日々職員は、日常に於いて、利用者一人ひとり外出のくせや傾向をつかんで対応し、身体拘束ゼロの共有意識を図って取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法に基づく学習会のきかいを設け、事業所に限らず自宅での虐待が見過ごされぬよう注意すると共に防止に努めている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内で権利擁護の研修会を開き、職員に周知徹底を図っている。「高齢者の思いに寄り添うケアを推進する為の手引き」を身近に置き観覧し研究している。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結や解約・改定時には時間を多く取り、細かい部分まで丁寧に説明するよう心掛けている。疑問点やご意見などは遠慮なく言っていただけるようお声掛けしている。			

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム甲西**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様との連絡を密にとり、利用者様の状況をお伝えすると共にご意見・ご要望などをお聞きし、運営に活かしている。また日頃から利用者様との会話の中でご意見をうかがっている。	利用者一人ひとりの家族の立場に立ち、家での生活の様子を積極的に聞き、排泄など家と同じケアで支援しサービスに反映している。利用者には、日常会話の中から、思いや要望を聞き、具体的な取り組みについて話し合い意見を反映している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回ミーティングを行い、職員の意見や要望を聞き、業務に反映できるように取り組んでいる。また日常的に一人一人の意見聞いたり、言えるような環境作りをしている。	管理者はミーティング時、意見を出しやすい様に心掛けている。日頃から、コミュニケーションを図り、意見を言いやすい環境に努め、風呂マットが危険であるため、新しい物を購入・夜間の排泄や体位交換についての意見など職員の気づきやアイデアを運営に取り入れている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者やスタッフの努力や実績、業務状態などを評価し、やりがいや向上心が持てるよう配慮している。資格習得についても勤務時間を考慮するなど応援体制もある。個々に面接を行い、働きやすい職場環境、条件等の把握に努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員に対して、力量や段階に応じた事業所内外の研修や学習会の機会をつくり、人材育成に取り組んでいる。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の同業者の交流会や勉強会の開催時には積極的に参加できている。			
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	場面場面でのお声掛けをしながら、ご本人様のお声に耳を傾け、信頼関係が構築できるよう職員全員が努力しながら、困りごとや望んでいる生活が何かを理解できるよう努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様とじっくりお話できる時間を設け、何に困っているのかなどをお聞きし一緒に考えながら、不安の軽減や望む暮らしができるよう努めている。ご家族さまに安心していただけるよう、初期は特に連絡を密にとり、ご様子をお伝えしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様とご家族様それぞれにこれまでの生活や困りごとなどのお話を伺い、その背景からどのようなサービスが必要かを分析するようにしている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や洗濯などの家事を一緒に行ったり、3度の食事を一緒にするなどしている。会話の中でも暮らしの知恵など教えていただいている。			

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム甲西**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃からご家族様とも会話を増やし、お気持ちに寄り添いながら本人様の日々の様子や出来事などを共有し、共に支える環境作りをしている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症予防の観点から、直接お会いすることが今は出来ない為、現在はリモートや密着し面会などを行い、ご友人などともお会いできる機会を設けている。	今年度は家族の面会や訪問者も無かったが、家族には、ラインでの対応を説明し、リモートで関係の継続支援を行なっている。手紙や年賀状を出し、馴染みな人間関係が途切れない様に働きかけている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれのお話に耳を傾け、必要時は仲介しながら、仲良く楽しい環境作りを努めている。食事の席も気の合う方同士と一緒にいられるよう関係性の把握に努めている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も利用者様と職員とで併設の老健へ面会に行ったり、ご家族さまと連絡をとり退所後も相談などに対応している。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用しながら、ご本人様の思いや意向の把握に努めている。言葉で表現が困難な方は行動や表情に気を配り、その思いを読み取るよう努めている。	日々の関わりの中で、表情・行動からアプローチを一つひとつ丁寧にしている。意思疎通が困難な場合は、日頃の会話の中で、行動や表情から汲み取り把握している。また、家族からこれ迄の生活背景を聞き、取り組んでいる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用しながら、これまでの生活や馴染みの暮らし方、また環境の背景や人間関係等の細かな部分まで把握できるよう努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の日々の過ごされ方や心身の状態の変化に留意しながら、ご様子を記録し、職員で共有している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	何か変化が起きた時はその都度職員で共有し、適時担当者会議を開催し問題点などを出し合いご本人やご家族と相談しながら、必要時プランの見直しを行っている。	毎月のフロア会議で情報を共有し介護計画を作成している。アセスメントを含め、全職員で、意見交換やモニタリングを行っている。本人、家族の要望や変化が生じた場合には、担当者会議をその都度行い、モニタリングに基づいた介護計画の見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人一人の1日を通しての行動や発言、そこからの職員の対応や気づきを日々の記録に残し、情報の共有や介護計画の見直し、またケアの実践に活かすよう努めている。			

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム甲西**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様のその時の状況に応じて、通院の支援を行っている。また、併設施設の協力を得ながら、サービスを限定せず多機能に対応できるようにしている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	例年であれば地域包括センターや田島地区区長などの協力を得ながら、地域のボランティアの方などに来ていただいたりしている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様とご家族様の希望されるかかりつけ医に診ていただいている。受診の際は普段のご様子を詳しく書いたものを主治医にお渡しし、かかりつけ医と連携をとりながら病状の把握に努めている。	本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。事業所に週1回の往診があり、他の利用者は受診している。また、家族同行の受診困難な利用者は、外部サービスを利用し、情報は共有している。薬のみの場合は、職員が取りに行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調や表情の変化に留意し、異常の早期発見に努めている。日頃から併設施設の看護師と連携をとり、変化が見られたときは直ぐに報告をし、医療につなげている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者様が入院された際は病院と連絡をとり回復状況等の確認をしながら、退院の際は速やかに再入所していただけるような環境を整えている。また、入院先へお見舞いに伺い、利用者様が安心して治療に専念できるよう努めている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご家族様にご意向を確認し、当施設で対応できる最大のケアについての説明をしている。方針が決まればチームで共有していく。重度化して医療行為が必要な場合は併設施設へ移れるように協力を得ている。	入居時家族と話し合いの場を持ち、家族の意向を確認している。重度化し医療行為が必要になった時は、併設の事業所へ移行し対応できる事を伝えている。食事が摂れない・嚥下問題・寝たきり・吸引など変化がある際には、その都度家族に連絡をし、随時意志の確認しながら取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルを作り職員全員が把握している。また、急変時は併設施設の看護師が応援に入り対応することになっている。急変時の対応についての研修も行っている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアルを作成して目に付く所に掲示している。老健と合同の避難訓練と夜間を想定した防災訓練を年2回行っている。近隣協力者の連絡先も緊急連絡網に記載している。	年2回火災・水害の避難訓練を行っている。水害想定では、法人老健と合同で、車いす利用者と一緒に2階・3階への避難訓練を行っている。消防署の指導で訓練の様子を記録に残し次につなげている。備蓄品もある。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩と言う事を常に頭に置き、言葉使いや対応を心がけている。また、利用者様の情報はすべて鍵をかけて管理している。	日々の対応の中で、慣れ合いにならない様に工夫し、距離感を大切にするように努めている。利用者が、これまでの生活に合った言葉かけをするように心掛けて、日常生活の中で、利用者が自ら選び自己決定出来るように配慮し、一人ひとりの人格を尊重するように努めている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム甲西**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている		ご本人様がなんでも気軽にどのスタッフにも話せるような雰囲気作りを心がけている。意思表示が困難な方には行動や表情を注視し、読み取り、理解するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している		これまで歩いて来られた生活の習慣を理解し、集団生活の中でも自分らしさが保てるよう、お一人お一人の生活の流れを尊重したサービス計画に基づき支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している		着替えの衣類を準備する際はご自身で着たい服を選んでいただいている。また、女性のかたは朝の整容時にスキンケアをゆっくりしていただけるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている		主食のご飯はできる利用者様に手伝っていただきながら炊いている。副菜は併設施設の厨房から運ばれてくる。定期的に利用者様の食べたいものを昼食時にみなさんで作っている。また、セレクト食もあり、ご自身で選ぶ楽しみももてる機会を設けている。		献立は管理栄養士が作り、副食は老健から運ばれて来る。月に1回事業所独自で食材を買いに行き作っている。コロナの影響で、外食は控えているので、事業所内で、お赤飯やどんど焼きのお団子を作り飾ったり、ホットケーキを作り、食を通じた様々な取り組みに活かしている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている		毎日の個々の飲水量を記録し、共有しながら、1日に必要な水分量がきちんと摂れるよう支援している。老健との管理栄養士と相談しながら、個々の体調や摂取状況に合わせた食事形態、嗜好品などを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている		毎食前に嚥下体操を行っている。毎食後口腔ケアの言葉かけを行い、ご自身でできる方は歯間ブラシで仕上げ磨きを行い、出来ない方はお手伝いしている。また、定期的に訪問歯科が来て口腔内を診てくれる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている		排泄チェック表から排泄の状況を把握し、清潔に過ごしていただけるよう、誘導や声掛けを行っている。車椅子の方も、見守りや介助を行い、できるだけトイレで排泄が継続できるよう支援している。夜間は必要な方にはポータブルトイレを提供し、夜間の排泄がスムーズにできるよう支援している。		自立の利用者もトイレ利用の際には、さりげなく見守るようにしている。一人ひとりのサインを全職員が把握し、声掛けを工夫してトイレでの排泄を大切にしている。家庭での排泄の習慣でできない利用者には、タイミングを見て声掛けをし支援をしている。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる		排泄チェック表をもとに、必要に応じて水分量や食事内容を管理栄養士と相談しながら提供している。また、できるだけ運動不足にならないよう、歩行や運動を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている		週3回入浴日を設け、ご自身のタイミングでお一人ずつゆっくり入っていただけるよう支援している。入浴後は個々の保湿ローションを用意している。歩行が困難な方は老健のチェア入浴を使用し安全に配慮している。		基本的には週3回。利用者の希望で午後に対応している。現在入浴を拒む利用者はいないが、家で使っていたこだわりのクリームを使い、気分良く楽しんで入浴出来るように支援をしている。肌の弱い方に対して職員は、安心して入浴できるように工夫している。また、季節に応じてゆず湯等で楽しんでいる。

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム甲西**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はできるだけ活動を促すが、ご自身のペースで休みたい時に横になって頂くなどしている。夕食後も個々の就寝時間に休んでいただき、居室の明るさや温度調節を行っている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ずつの処方説明書をファイルしスタッフで共有している。使用している薬の副作用も全員が把握し内服薬の変更があった際は連絡ノートに記載し全員が把握の徹底に努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や洗濯などの簡単な家事をお願いし、毎日の日課にしていることで生活に張り合いを持ってよう支援している。畑の作業を昔されていた方には施設の前にある畑で野菜を育てるなど支援している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度はコロナ感染症拡大の為外出は控えているが、例年通りであれば月に1度みなさんで外食へ行ったり、花見やりんご狩りなど季節ごとの外出をしていただいている。	コロナ禍であるため、特別な外出は困難であったが、日常は、事業所の敷地内を散歩したり、玄関前に出て田んぼの風景を見ながら会話をし、外気に触れ五感を刺激する機会としている。。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族さまよりお金をお預かりし、ご本人様が欲しいものや必要な物を購入している。現在は一緒に買い物は難しい状況だが、普段は一緒に買いに行かれる方もいる。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望に応じて、スタッフが付き添い電話をしていただいている。手紙は毎月職員が家族に送っているが、ご自分で手紙が書ける方には書いていただいている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関ホールにはイベント等の写真や季節の飾りつけをしたり、廊下にはみなさんで作った貼り絵を貼っている。また、畳のコーナーをホールにもうけ、くつろげる空間になっている。和んでいただけるよう、観葉植物も設置している。	玄関ホールには、ソファや観葉植物が置かれ居心地よく過ごす事が出来る。畳のスペースでは、新聞紙でごみ入れを作ったり、貼り絵を作り、気分転換が出来る空間となっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールにソファを置いたり、畳のコーナーがあるので、それぞれが好きな場所で過ごせるようになっている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ自宅に居るような環境で過ごしていただけるよう、自宅で使用されていた椅子や家具をそのまま使用していただいている。壁にはご自身で作成したカレンダーや、ご家族の写真など、ご本人様の好きな物で囲まれて過ごせるよう支援している。	居室は明るく日当たりが良く、富士山も見えて過ごしやすく良い環境にある。利用者によって、夜間の光が眩しく落ち着かないとの事で、足元だけにして、居心地の良い居室づくりに取り組んでいる。また、各部屋に濡れたタオルを掛けて乾燥を防ぐ配慮をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室ごとに洗面台があり、ご本人のペースで身だしなみを整えたりすることができる。トイレは3か所あり、安全に配慮しながらご自分でトイレに行けるよう支援している。			